

## 河川16 早明浦ダム(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
徳島6	徳島県教育委員会編「徳島県の近代化遺産」(徳島県教育委員会、2006年)、35頁	早明浦ダム (中略)吉野川では昭和40年に着工された早明浦ダム(高知県土佐町、本山町)を始めとして、四国各県への分水も行われており、文字通り「四国の命の水」として、四国全域に恵みを与えている。
徳島59	上板町史編纂委員会編「上板町史 下巻」(上板町、1985年)、675頁	吉野川の洪水調節計画 (中略) 建設省では、柳瀬ダムのほかに本川上流部にさらに洪水調節用のダム築造の必要性を認め、吉野川総合開発計画と組み合せ、ここに多目的の早明浦ダムの建設が計画された。こうして早明浦ダムは昭和四十年(一九六五)に着工され、四十八年十一月十日に完成、「四国の水がめ」として四県に給水、洪水調節、発電などに大きな役割を果たすことになった。 吉野川は、阿波町岩津地点における最高流量を一万七、五〇〇立方メートル/秒とし、このうち二、五〇〇立方メートル/秒は上流ダムによって調節し、河道の流量は一万五、〇〇〇立方メートル/秒とされた。こうした改修と洪水調節によって、吉野川は理論上八十年に一度襲来すると想定される特別大洪水に対しても、その安全性が十分に確保されることになった。 下流域住民の長い夢は、いまや現実の姿となって、吉野川の治水・利水は完璧なものになろうとしている。人びとの長い苦闘の歴史と、はかり知れない犠牲の上に、吉野川はいま「母なる川」へ変貌した。
徳島80	新編三野町史編纂委員会編「新編 三野町史」(三野町、2005年)、1126頁	早明浦ダムと池田ダムの完成による洪水の軽減 吉野川の洪水は、地元の集中豪雨や台風による洪水ばかりではなく、土佐地方の豪雨によっても発生する洪水であったから毎年九月の二十日前後には大洪水に見舞われ、太刀野地区や勢力地区、加茂野宮地区、清水地区の稲作地帯や加茂野宮や清水の島地区の広大な桑園は濁流に吞まれ、甚大な損害を受けていた。町民はそれでも「この地域は吉野川の遊水地帯なので仕方がない、天災だ」と言って諦め、我が運命を嘆くのみであった。 ところが、昭和四十年、新河川法が施行されて吉野川が一級河川となり、国の直轄河川となったために昭和四十二年、国は高知県本山町に計画していた早明浦ダムの本体工事に着手、続いて池田町に香川用水分水用及び北岸用水用の調整池田ダム建設に着手する一方、岩津地点から池田までの築堤による直轄治水事業に着手し、舞中島の用地買収を始めたのである。 昭和四十八年十一月、吉野川の上流本山町に早明浦ダムが竣工し、続いて昭和四十九年六月池田ダムが完成したために、台風による大洪水はほとんどなくなったのである。

## 河川16 早明浦ダム(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
徳島249	吉野川北岸土地改良区30年史編纂委員会編「吉野川北岸土地改良区30年史」(吉野川北岸土地改良区、2002年)、645-646頁、648-649頁	<p><b>吉野川北岸用水事業の事業効果</b>            当地区の農業用水改良事業実施に伴う効果としては、まず、①早明浦ダムにより安定した取水源が確保されたことにより高度の水利用が可能となり、生産性及び品質の向上が図れ、また、②冬期水利権及び畑地水利権の確保により周年灌漑が確立され、複合経営への移行の実施及び畑地の高度利用が図れる。③安定水源の確保により用排水の分離等ほ場整備事業の実施体制の基盤が整備され、労働生産性の向上に大きく寄与される。④期別必要水量の確保は、新生産技術の開発など例えば早期米栽培の導入による経営の安定が図れる。⑤安定した自然取水は水管理費が従前に比して格差があり労働生産性の向上が図れる。⑥地下水の涵養による農村の環境整備は農業用水ばかりでなく、他用途にもバランスよく活用が可能となる。⑦工法上の処置として、トンネル等埋設構造物工法による水路のため、従来の豪雨時に生じていた水路の決壊被害の解消と汚濁汚染水の流入が回避され、清浄な用水が確保でき、ハウス園芸、そ菜栽培に適す。⑧水路延長約69キロ余のほとんどが地下水路のため、水路建設に伴う用地の潰れが全く解消されている。⑨従来地下水取水の地域では自然流下水の取水への変更に伴い、維持管理費の節減が図れた。⑩各地域の土地改良区なり水利組合の統合(各町を一元化した町単位の土地改良区)により運営基盤の強化と維持管理費の節減が図れるなど夫々大きな効果が見込める。</p> <p><b>農業生産構造の変化</b>            吉野川北岸用水地区関係町の生産農業所得の構成比は事業開始前の昭和45年には畜産が50パーセント弱、水稲が20パーセント弱を占めていたが、現在においては水稲や工芸作物、養蚕に替わって野菜類が約35パーセントを構成し、また、割合は小さいものの花き類が順調な伸びを見せている。            また、吉野川北岸用水は、年間を通して水利用ができることから「うまい米づくり、もうかる米づくり」の動きは北岸用水の水を利用した早期米の導入へと道を招くこととなった。            このことにより、水田裏作を利用した、レタス、菜花など冬春野菜の導入を容易にすることとなり、併せて稲作転換の推進による、すいかや夏秋なす、トマト等の生産拡大に拍車がかかり、吉野川北岸用水の水利用により本地域の野菜の産地化が進んでいる。</p>
香川8	香川県編「香川県史 第七巻 通史編 現代」(香川県、1989年)、970-971頁	<p><b>香川用水の通水</b>            県民待望の香川用水の暫定通水式が行われたのは、昭和四十九年(一九七四)五月三十日、三豊郡財田町長野の東西分水工の施設地であった。吉野川の水を讃岐平野に導入することは、水不足に悩まされ続けてきた県民にとっては、昔からの夢であった。その願いがこの日ようやく実ったのである。            そして、翌五十年六月からは池田ダムを通じて本格的な通水が開始されはじめた。それから十二年後の昭和六十二年度末までに導入された水量は一八億一五七五万トンに達し、讃岐平野を潤すと共に、県民の生活と産業に大きく貢献し続けているのである。</p>

## 河川16 早明浦ダム(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
香川22	引田町史編さん委員会編「引田町史 近・現代」(引田町、1995年)、268-269 頁	香川用水引田支線水路 香川用水引田支線の工事について、石引池の上に「香川用水通水碑」にその概要が記されている。 (中略)吉野川総合開発計画ノ一環トシテ遠ク四国山脈ノ奥深く其処ニ源ヲ発シタ早明浦ダムヨリ池田 ダムニ取水シ阿讃トンネルヲ通り讃岐ノ東端引田町吉田石引池ニ至リ其ノ水ハ農業用水及ビ上水道用 水トシテ川股浄水場ヘポンプ送水シ 引田町ノ水需要ノ安定ヲ図ル(中略) 引田町に香川用水が配水され、千足ダム完成と合わせて、引田町の水不足も解消した。
香川26	白鳥町史編集委員会編「白鳥町史」(白 鳥町、1985年)、673頁	香川用水事業 (中略) 徳島県三好郡池田町に建設された池田ダム(池田調整池)は、早明浦ダムと一連のダムで、池田ダ ム下流の吉野川の治水と、吉野川北岸用水および香川用水に必要な取水位の確保ならびに電源の開 発を併せ行なう多目的ダムで…… (中略)この香川用水計画は、こうした本県の水需要を抜本的に解決するものとして計画されたもので ある。本町においても挙県一致で推進された香川用水事業の完成によって受益面積一八九・八ヘク タール(水量三七万九六〇〇トン)の恩恵に浴している。
香川29	長尾町史編集委員会編「改訂 長尾町 史 下巻」(長尾町、1986年)、296頁	香川用水 (中略) 長尾地区における香川用水からの利水は、昭和五一年六月から導入し、農業用水に年間五六万トン の水を使用した。これが、昭和五八年には二二〇万トンの使用となり、約四倍の使用量である。水は昔 から文化を運ぶともいわれているが、使用する量は、その地域の文化を計る尺度でもある。長尾町にお いては、さきに通水した前山ダムの水と、香川用水の水が中央部でクロスして大きな動脈になってい る。この水はさらに付加性を高めて、長尾を発展させる水でもある。

## 河川16 早明浦ダム(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
香川40	牟礼町編「牟礼町誌」(牟礼町、2005年)、157-158頁	<p>香川用水導入による上水道事業</p> <p>(一)第一次拡張事業 本町は昭和四十年(一九六五)ごろから、人口が増加に転じ、給水人口、使用水量ともに増大する一方となった。こうした時期に、国において四国総合開発計画が立案され、その中核となる有効貯水量二億八九〇〇万立方メートルの早明浦ダムが四十五年(一九七〇)度完成を目標に着工された。本町もこの計画を受けて、昭和四十四年(一九六九)三月三十一日、香川県広域水道事業(香川用水)の東部浄水場系統と用水供給協定を結び、計画給水人口一万九九〇〇人、計画一日最大給水量八〇〇〇立方メートルの事業変更認可を得て、総額一億二〇〇〇万円の工事に昭和四十五年度より三ヵ年計画で着手した。(中略)本町では四十九年(一九七四)八月から受水を開始した。</p> <p>(二)第二次拡張事業 昭和五十一年(一九七六)四月、八栗山上地区への給水のため、現在の給水区域九平方キロメートルを一一・五平方キロメートルへ拡大の事業変更許可を得て、総額六二〇〇万円で五十一年度から昭和五十五年度まで五ヵ年計画で着手、完成した。(中略)五十三年(一九七八)九月からは、菜切浄水場へ取水している原水の水質悪化のため浄水場を停止して香川用水に全面依存するようになった。</p> <p>(三)第三次拡張事業 昭和五十六年(一九八一)から平成二年(一九九〇)度までの県営水道第一拡張計画に合わせて、昭和五十八年(一九八三)三月三十一日、計画給水人口二万八〇〇〇人、一人一日最大給水量五〇七リットル、一日最大給水量一万五五〇立方メートルの事業変更認可を得て、総額四億一七二三万六〇〇〇円の工事を五十八年度から平成二年度を目標年次において実施。(中略)その間、五十九年(一九八四)、六十三年(一九八八)ともに、五十八年(一九八三)に続き、異例の冬季渇水により、香川県をはじめとして本町も渇水対策本部を設置したが、実害なく解除した。</p>
香川60	香川町誌編集委員会編「香川町誌」(香川町、1993年)、657-658頁	<p>香川用水 (中略)</p> <p>こうした事情により、徳島からの導水が計画され、四国総合開発の一環として早明浦ダムが造られた。これから流れる吉野川の水を本県に導こうとする企てが香川用水である。</p> <p>農林省、県、水資源開発公団が昭和四十三年に着工、五十五年完成した。早明浦ダムで八億六三〇〇万トンを開発、うち二億四七〇〇万トンを香川に分水するというもの。本県の全ため池の総貯水量が一億四六五〇万トンだからいかに導水が多いかがわかる。</p> <p>(中略)</p> <p>用水路は本町の北部を東西に走っていて大野から浅野の北部を通っている。上水はこの用水によって県内ほとんどに普及、衛生上大きい効果を上げた。しかし本町の大半は用水路の南つまり上部になり、このため四十九年の開通時に県から日量三〇〇〇トンの配水を高松市浅野浄水場から水利転換で取水、加入者に給水していたが六十年からは人口がふえたこともあり、県水道局東部浄水場(高松市岡本町)の用水を香南町経由で本町岩崎で日生団地にポンプアップ、全町に香川用水を供給している。日生団地からは一部、三木町にも通水している。</p> <p>平成四年度で事業所を含む全町七〇八六口に供給、普及率は一〇〇パーセントに近い。</p>

## 河川16 早明浦ダム(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
香川62	香南町史編集委員会編「香南町史 続編」(香南町、1996年)、485頁	早明浦ダム (中略) この開発によって吉野川は、流水の正常な機能を維持することができ、河川流量の安定化が図られたわけである。したがって、従来渇水期において生じていた下流の水利用制限も塩害も解消されるようになった。
香川85	満濃町誌編さん委員会編「新修 満濃町誌」(満濃町、2005年)、538頁	香川用水 (中略) 香川県は、<香川用水完成は、近代農業への第一歩>をスローガンとして次のような事業の効果を打ち出している。 ①農業経営の安定化 ②多収量の良品種の保証 ③水管理のむだな労力や費用を省く ④不合理な水利慣行の改善 将来の農業は、より少ない労力でより多くの生産をあげることで、そのためには潤沢な用水が基盤として考えられる。香川用水計画の完成によって用水が豊富になり、水利条件が均等で、ほ場整備も容易になった。機械化・協業化に適した土地条件となり、より少ない労力でより多くの生産の実現が可能になった。
香川86	仲南町誌編集委員会編「仲南町誌」(仲南町、1982年)、895頁	香川用水記念碑 (中略)佐文の歴史は水との闘いの歴史であったと言っても過言ではない(中略)この事業完成によって従来の不合理な水利慣行に終止符を打ち佐文各池に統合され香川用水の近代的水利団体として発足することとなったこれで水不足は全く解消し将来当地域の営農向上に大いに貢献するものと期待している
香川92	高瀬町編「高瀬町史 通史編」(高瀬町、2005年)、684頁	香川用水 (中略) 香川用水の通水によって、水利慣行は一変し、新たな水利秩序が生まれたが……
香川93	観音寺市誌増補改訂版編集委員会編「観音寺市誌 通史編」(観音寺市、1985年)、588頁	香川用水 (中略) このようにして導き入れられた約四〇〇万トンの香川用水は、観音寺市から干害という自然災害を解消したばかりでなく、農業生産力を高め農業経営近代化を推進していく重要な根幹となっている。
香川98	新修豊浜町誌編さん委員会編「新修 豊浜町誌」(豊浜町、1995年)、275頁	香川用水 (中略)香川用水の恵みで、町内の田、約二七〇ヘクタール、畑、約一九〇ヘクタールが、水の心配をしなくてすむようになった。
香川105	豊中町小学校社会科副読本編集委員会編「豊中のすがた」(豊中町教育委員会、1992年)、114頁	水を求めてきた歴史 (中略)香川用水のおかげで農業用水をはじめ、工業用水・上水道の水不足の心配はなくなりました。

## 河川16 早明浦ダム(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
香川110	丸亀市小学校社会科副読本編集委員会編「あすへのびる丸亀」(丸亀市教育研究所、2006年)、79頁	水道の水源 丸亀市の水道の水は、満濃池や土器川の上流、高知県の早明浦ダムなどから来ています。水げん地に見学に行くと、緑の多い山から水が流れ出ていることが分かります。 香川用水とは、徳島県を流れる吉野川の水を讃岐山脈の下につくられたトンネルを通して香川県に送るものです。
香川112	山本町小学校社会科副読本編集委員会編「わたしたちのまち 山本」(山本町教育委員会、1997年)、115頁	香川用水 (中略) 香川用水の完成で長年苦しんでいた水不足がだいぶ解消され、香川の人々の喜びは、はかりしれないものがありました。
香川113	観音寺のすがた編集委員会編「観音寺のすがた」(観音寺市教育委員会、2007年)、121頁	香川用水 昭和49年には、香川用水が完成し、吉野川の水が送られてくるようになりました。 中部用水の池や水路は、香川用水の通り道としてそのまま使われ、役立っています。 香川用水の通水により、香川県全体の水不足が解消されました。きょう土の農業や産業もいっそう発展することでしょう。
香川114	豊浜町社会科副読本編集委員会編「豊浜のすがた」(豊浜町教育委員会、1997年)、97頁	香川用水 いねを育てるために池を直したり井戸をたくさんほったりしましたが、十分な水をえることはできませんでした。また、野菜づくりがさかんになると、ますます水が足りなくなってきました。 この水不足をなくそうとしたのが、香川用水です。 香川用水の水は一度、姥ヶ懐池に入ったあと、町内の池や川に分かれていきます。
香川187	さぬき市史編さん委員会編「さぬき市旧五町史 続編 一津田町・大川町・志度町・寒川町・長尾町一」(さぬき市、2019年)、328頁	香川用水事業 大川町は、古来、水不足に悩まされてきた地域であったため、農業用水の確保に大変な苦労を重ねてきており、このような有史以来の水問題を解消したのが早明浦ダムを中核とする吉野川総合開発事業の一環として取り組まれた香川用水事業である。
愛媛9	愛媛県史編さん委員会編「愛媛県史近代下」(愛媛県、1988年)、587-588頁	銅山川疏水 (中略) 昭和四二年、吉野川水資源開発基本計画が定められ、高知県の早明浦ダムの関連事業として多目的の新宮ダム(五〇年完成)も銅山川に建設され、柳瀬ダムの水とともに川之江市・伊予三島市・宇摩郡土居町・同新宮村の産業発展と生活安定に寄与している。
愛媛17	愛媛県史編さん委員会編「愛媛県史地誌Ⅱ(東予東部)」(愛媛県、1988年)、760頁	銅山川工業用水道事業 (中略)銅山川工業用水道事業は、伊予三島・川之江市の基幹産業である紙・パルプ製造等の発展を目的として始めた事業であり、今では当地域に欠かせない重要な事業として定着している。

## 河川16 早明浦ダム(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
愛媛27	川之江市誌編さん会編「川之江市誌」(川之江市、1984年)、544-545頁	銅山川の水資源開発 (中略) この水をめぐり宇摩地方に共通した問題が一応の解決をみることができたのは昭和二十八年の柳瀬ダムの完成による銅山川の総合開発によってであった。 以来、川之江市の水資源は、灌漑用水・工業用水・生活水のすべてにわたり銅山川に大きく依存することになり、昭和五十年の新宮ダムの完成と、それに伴う愛媛分水の強化により、いっそうその度合いを高めている。 (中略) 柳瀬・新宮両ダムの出現は、農業用水・生活用水及び発電の各方面で、多目的としてはかり知れない恩恵を川之江市にもたらした。銅山川下流域への治水効果共々、多目的ダムとしての効果と役割を充分果たしているといえよう。
愛媛128	国土交通省四国地方整備局吉野川ダム統管理事務所・柳瀬ダム管理支所編「柳瀬ダム50周年記念誌」(国土交通省四国地方整備局吉野川ダム統管理事務所・柳瀬ダム管理支所、2004年)、20頁	銅山川疎水 四国中央市は、現在、紙パルプ製造業者が50社、製紙等紙関連企業が約500社あり、日本の紙・板紙生産の約10%、世界の紙の約1%を生産し、日本一の紙の総合生産地として発展しています。 機械抄製紙は豊富な良質の水を必要とする産業で、当地方発展の要因は、世紀の一大事業・柳瀬ダムをはじめとする銅山川疎水事業の完遂とその活用による工業用水の確保にあり、先覚者の辛苦の賜です。
愛媛130	四国中央市教育委員会編「四国中央市のくらし 第二版」(四国中央市教育委員会、2006年)、136頁	銅山川疎水 (中略) 四国中央市は、むかしから紙づくりが盛んで、せい紙と紙加工業による紙産業をじくに発てんしてきた工業都市です。日本でも有数の紙産地として発てんしたのは、銅山川疎水の水のおかげと、むかしからたくさんの人々が町の発てんに苦労を重ねてきたためです。今では、新聞用紙や印刷用紙、書道半紙や金ふうなどを日本各地へ送り出しています。
愛媛132	愛媛県土地改良事業団体連合会編「愛媛の土地改良史」(愛媛県、1986年)、571-572頁	銅山川分水 事業完了後における当地域は、豊富で安価な発電余水の最高度の利用と高度経済成長の波にのって、製紙工場の拡張・近代化が進展し、大小の工場が林立して全国有数の製紙地帯に発展した。したがって都市用水の需要が増大し、また農業用水も総量規制によって、干ばつ年であった昭和33年・36年・38年などではなお不足が生じたので新しい水資源を開発する必要に迫られるようになった。 隣県の香川県も、農業用水・都市用水の需要に対応できなくなり、四国総合開発として、昭和42年吉野川の水資源開発基本計画が定められ、水資源公団事業として早明浦ダム・次いで銅山川に新宮ダムが建設された。この結果、長年待望していた銅山川の完全分水が実現し、農業用水については新たな樹園地の畑地かんがい用水を含め2,500千㎡の増量と、新宮ダムによる新規農業用水として川之江市の水田と樹園地に1,550千㎡が確保された。また都市用水の供給量も飛躍的に増加することとなった。

## 河川16 早明浦ダム(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
高知214	四国地方建設局吉野川ダム統合管理事務所監修「平成6年夏渇水における早明浦ダムの効果」(四国建設弘済会、1994年)、頁なし	<p>平成6年夏渇水における早明浦ダムの効果</p> <p>早明浦ダムは、渇水の非常に厳しい折も、利水の貯水量があるかぎり、利水者が協議して決めた水量を補給し続けました。</p> <p>早明浦ダムが利水補給した状況を、池田地点でみると、最も取水量を削減した第三次節水の期間では、補給前の流量がおおむね13m<sup>3</sup>/sであったと推測されるのに対し、早明浦ダムの補給量が上積みされ、約47m<sup>3</sup>/sを確保し、徳島県に約43.5m<sup>3</sup>/s、香川県に約3.5m<sup>3</sup>/sの水を分配した。</p> <p>吉野川下流には自流の約3倍の流水を確保できたこと、香川県にも送水が継続されたことにより、渇水の被害は相当軽減されたと考えられます。</p> <p>平成6年夏渇水時の高松市における早明浦ダムの効果</p> <p>平成6年の夏渇水の際、香川県高松市は、厳しい節水生活を体験しましたが、この時、給水された水の半分以上は、早明浦ダムから供給されたものでした。</p> <p>早明浦ダムがなければ、今から21年前の昭和48年に起きた3時間給水、完全断水が20,000世帯(当時)に及んだ“高松砂漠”の再来となったと想定されます。</p>
高知215	四国地方建設局吉野川ダム統合管理事務所監修「渇水ー平成6年夏渇水における早明浦ダムの記録ー」(四国建設弘済会、1995年)、15-16頁	<p>平成6年夏渇水時の早明浦ダムの効果</p> <p>今夏の渇水では、徳島県における吉野川からの取水には大きな支障が生じませんでした。これは、渇水が厳しい折りも、既得用水や河川の維持流量を補給し続けたからです。</p> <p>今回の渇水時における吉野川池田地点の流量を、仮に早明浦ダムがなく利水補給がなかった場合の流量と比べてみると、渇水の厳しかった時期では、補給前が約13m<sup>3</sup>/s、補給後が約44m<sup>3</sup>/sでした。</p> <p>吉野川下流の沿川では、多量の用水を取水しており、早明浦ダムからの補給がなければ、既得の利水者も含め、多くの用水で取水に支障をきたすばかりか、川の流量が減少するに従い、水質の悪化、水温の上昇、瀬枯れなどが発生し、魚をはじめとする生態系への悪い影響が出ていたと考えられます。</p> <p>平成6年夏渇水時の高松市における早明浦ダムの効果</p> <p>今夏の渇水により、高松市は厳しい節水生活を強いられましたが、この時、給水された水の半分以上は、早明浦ダムから導水されたものでした。</p> <p>早明浦ダムがなければ、まさに、今から21年前の昭和48年に起きた3時間給水・安全断水が、20,000世帯に及ぶ“高松砂漠”の再来といえます。</p>
四国1	四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」(四国建設弘済会、1990年)、980頁	<p>香川用水の通水 (中略)</p> <p>四十九年に県民の長年の念願であった香川用水が開通し、吉野川からの通水により当面の水不足は解消されることとなった。</p> <p>(中略)</p> <p>香川用水が開通してからも、四十八年を上回る渇水が発生したが、給水圧力の調整や洗車、散水栓の封印はあったものの長期にわたる給水制限はなく事業の効果が発揮されている。</p>



## 河川16 早明浦ダム(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
四国1	四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」(四国建設弘済会、1990年)、1102-1103頁	<p>吉野川総合開発計画の果たした役割</p> <p>吉野川総合開発計画の果たした役割について、特徴的なものについてふりかえってみると、大きく二つに分けられる。その一つは、三十年代後半～四十年代前半の復興期から成長期へ移行する時代において、四国四県に等しくかわる利水供給という社会経済の根幹的な基盤整備を計画立案され、それが後に確実に実現したことは、当時その規模は全国的にみても稀有のものであったといっても過言ではなく、のちに続く各種の巨大プロジェクトの先駆的役割を果たしたことは、間違いないと考えられる。</p> <p>いいかえれば、水問題という歴史的にも利害が複雑にからむテーマを四県それぞれの異なる立場で、長期間にわたり論議、協議して合意された、先人の努力と識見も特筆されるべきである。</p>
四国8	土木学会四国支部編「四国に豊かさと潤いをもたらした土木事業」(四国建設弘済会、1995年)、82頁	<p>吉野川総合開発事業 (中略)</p> <p>この吉野川総合開発事業により設置された各施設、特に早明浦ダムが昨年(平成六年)の西日本の大渇水の時にその効用を最大限に発揮し、その存在を全国的に認識されたことはまだ記憶に新しいところである。</p>
四国22	土木学会中国四国支部編「土木へのいざない」(土木学会中国四国支部、1991年)、136頁	<p>早明浦ダム (中略)昭和30年來の飛躍的な高度成長は、吉野川の総合開発の具体化を迫ることとなり、ようやくこの計画の中核となる早明浦ダムの建設の運びとなり、昭和42年度に着工、同50年度に管理を開始しました。</p> <p>以来、洪水調節に、利水、発電にと正に「四国のいのち」として大いに貢献しています。</p>
四国39	水資源開発公団吉野川開発局編「輝く21世紀の暮らしと水」(水資源開発公団吉野川開発局、発行年不明)、11頁	<p>吉野川水系の水資源開発</p> <p>吉野川水系において、現在7事業について既に施設を完成させ、早明浦ダムを中心に吉野川の総合管理を行い、年々襲いくる洪水に対処するとともに、新しく生み出された水を、徳島、香川、愛媛、高知の四県の農業用水や都市用水として供給することで、産業基盤の強化と生活環境の整備に貢献しています。</p>

## 河川16 早明浦ダム(高知県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
四国40	四国地方整備局吉野川ダム統合管理事務所・柳瀬ダム管理支所編「吉野川上流ダム群のはたらき」(四国地方整備局吉野川ダム統合管理事務所・柳瀬ダム管理支所、2003年)、4頁、6頁、10頁	<p>吉野川のダム群 (中略) 吉野川の洪水を防ぎながら、この豊富な水資源を活用しているのが早明浦ダムを中核とした富郷ダム、柳瀬ダム、新宮ダム、池田ダムのダム群です。(中略) 吉野川のダム群は、豊かな河川環境を維持して洪水や渇水から暮らしをまもり、四国の発展を支えています。</p> <p>吉野川ダム群の洪水調節の効果 平成9年9月16日に発生した台風16号の洪水では早明浦ダムへの最大流入量は5,100m<sup>3</sup>/秒(早明浦ダム完成後第2位の規模)となりましたが、洪水調節により水位を下げ、同時に柳瀬・新宮・池田の各ダムも洪水調節を行うことにより、吉野川下流域の浸水被害を大きく軽減させました。</p> <p>早明浦ダムのダム湖活用環境整備事業 (中略)事業の内容は整地や植生による基盤整備や環境保全施設の設置、展望広場等の整備です。整備の進んだ現在では来訪者も多く、新緑、山菜狩り、ハイキング、キャンプ、釣り、ヨットセーリング、紅葉狩、湖水祭などに楽しんでいます。</p>